口腔医療センター通信

ぱるす

発行日　2002年１２月２６日　　第１１号
発　行　札幌歯科医師会立口腔医療センター
〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目
TEL (011)511-7774　　FAX (011)511-1530
http://www2.tky.3web.ne.jp/~sasshi
E-mail sasshi@tky2.3web.ne.jp
発行人　小 林 重 行　　発行責任者　鶴 岡 一 彦

おいしくごはんを食べましょう

歯科衛生士　須摩　美雪

ぱるすを読んでくださる皆さん、口腔医療センターで摂食嚥下指導を行っているのをご存知ですか？
指導をはじめて早いもので4年8ヶ月になりました。当初より『上手に食べられない』『噛めない』と言う
お子さんや、中途障害の為『水分を取るとむせてしまう』『食べ物によって飲み込みづらい』等々と
不安を抱える31名の方が受診されています。
私はこの摂食嚥下指導に携わるようになり、改めて　食べるって本当に大切な事″と思うようになりました。
食を通して季節を感じたり、大好きな物を食べて幸せな気持ちになったり、あるいはみんなでわいわい食事を楽しんだり、食は栄養を取るだけでなく心を豊かにしてくれます。
ですから困っている方がいたら何かきっかけをつかんで、美味しく食べる日を迎えて欲しいと願わずにいられないのです。
つい先日、宇都宮で摂食・嚥下リハビリテーション学会が開催され私も参加してきました。
ここには全国からおよそ1700人が参加し活気に満ちた意見交換が行われていました。
テーマは　チームアプローチ″です。なぜならこの学会には、医者、看護師をはじめとする医療職、栄養士、調理師、食品会社の方など、様々な職種が集まり、分け隔てなく互いの専門分野を生かして、患者さんに還元しようという取り組みが行われているからです。
個々からチームへと、自由な発想が求められる時代の流れを感じました。
最後に、指導を続けていくうえで、指導環境や日程など問題はまだまだありますが、先生方は暖かくてとても良い雰囲気を持って指導されています。お困りの方は是非相談なさってください。

「ただ今摂食研修医として奮戦中」

障害者診療部所員　　谷脇　明宏

診療が終わって、家に帰って晩酌をしながら晩御飯を食べる。
月並みですが、私にとって　食べる」ことは最高の楽しみの一つです。
もし、思うように食べることが出来なくなったら、生きていく意欲が萎えてしまいそうです。
食べ物を取り込み、噛み、飲み込む機能に障害があることを摂食・嚥下機能障害といいます。これは、体の機能が低下した高齢者、脳血管障害などの後遺症のある人、脳性麻痺などの障害を持っている人たちに多く見られます。
私たち歯科医は、虫歯を治し、入れ歯を作り、歯磨き指導をすることで、よく噛めるようにすることが仕事です。

口腔医療センター通信

良く噛めるようにすることは、唾液の分泌を促して食べ物の消化を助けます。脳への血流量を増加させて脳を刺激し、口の中の細菌の生育を抑え感染症にならないように防御します。
さらに、おいしく食べられることで、食べるという「ひと」の基本的欲求を満足させます。
しかし、摂食・嚥下機能障害があると、歯の治療だけでは良く食べられるようにはなりません。
食べる度にむせたり、更には飲み物や食べ物が誤って気管に入り込んだりして窒息しそうになったりするからです。死因の上位に占める肺炎の原因として誤嚥が挙げられているほどです。
日本では数年後に5人に1人は65歳以上という超高齢社会を迎えます。
医療の進歩により、お年寄り、障害者の延命率も上昇しています。当然、脳血管障害や神経疾患の後遺症の発生率も増加し、摂食・嚥下機能障害を持った患者さんが増加していくことが予想されます。
このような患者さんには、歯の治療とともに、摂食・嚥下機能リハビリテーションを行う必要があります。
このような社会情勢から、札幌歯科医師会口腔医療センター障害者診療部では、平成10年より摂食外来を開設し、障害者を対象とした摂食リハビリテーション指導を開始しました。
北海道大学より木下憲治先生を指導医として招き、口腔医療センター担当医が月1～2回土曜日に摂食指導を行っています。また、摂食指導ができる歯科医を養成するための研修医制度を設けています。

私は10年ほど前より訪問歯科診療を行い、通院できないお年寄りに在宅で歯の治療をしてきましたが、摂食・嚥下機能障害のため入れ歯を作るだけでは思うように食べられない患者さんもおり、どのように対処したら良いか困っていました。
そこで、今年の4月より私も研修医となって摂食指導の勉強を始めました。
実際に摂食指導の現場に立つと、その難しさを痛感させられます。患者さんが摂食・嚥下機能障害となった疾患は様々であり、その疾患に対しては特に専門的知識が必要となります。
患者さんのその日の体調など全身管理することも必要です。また、患者さんを介護する人も家族であったり、施設職員であったりとそれぞれ異なります。これらを総合的に判断しながら診断し、指導方法を決定するには多くの知識と経験が必要です。患者さんは障害を持っているため、その指導には長い時間がかかります。指導の場で私はただオロオロしているのが現状です。

平成6年4月より、「摂食・嚥下機能療法」が保険導入されましたが、日本では、摂食・嚥下リハビリテーションに関する取り組みはまだまだ緒についたばかりです。
非常に手間と時間がかかるにもかかわらず、まだその重要性は社会的に広く知られていません。
しかし、9月に行われた宇都宮での第8回摂食・嚥下リハビリテーション学会では、医師・歯科医師・看護師・言語聴覚士・作業療法士・理学療法士・栄養士・保健師・歯科衛生士などさまざまな職種の人が参加し、積極的に発表していました。
摂食指導には、各専門の人たちがばらばらに関るのでなく、摂食・リハビリテーション・介護を通したチームアプローチが必要と痛感させられました。
しかし、それぞれの専門の人たちが、摂食・嚥下機能障害をもたらす疾病に対しての対応はしていても、各専門領域に境界問題があり、なかなか連携することが難しい場合も少なくありません。この垣根をとりはらうには、行政の摂食・嚥下に対する理解と援助が必要と思われます。
食べるのはまず口からであり、摂食指導には歯科医師・歯科衛生士の関わりは必須です。そこで、われわれ歯科医師が行政や他の医療・保健・福祉職種・各種施設に働きかけることで、人は食べる楽しみを復活させることができ、障害を持っている人たちにより良い生活が出来る環境を作っていけると考えています。
皆さんのご理解とご支援をお願いしたいと思います。

今　想うこと」

串馬竜一さんのお母さん　　串馬　久美子さん

2才の時、かしわ学園の母子通園で、初めて歯の状態を見てもらい、小学校になった頃虫歯ができ、それから定期的に口腔医療センターにお世話になっております。
ここは、普通の病院と違い、玄関をくぐると、スタッフの方が、必ず声をかけてくれます。
竜チャン元気、身体の調子はどう″等々、歯の治療以外にも色々と親切にお話してくれ、子供だけでなく、親もほのぼのとした気持ちになります。
待合室では、元気にモノマネなどをしていますが、診療台に上がると、その日の気分次第で診療を拒否し皆さんを困らせて居ります。
現在、虫歯の治療後の冠がグラグラして、抜けるのも時間の問題といわれており、治療する場合は、大学病院で全身麻酔が必要、心臓も悪いので難しいそうです。
小学校までは、ダウン症で心臓も安定し元気に跳びまわっておりましたが、高学年になるにつれて大学病院その他の病院に行くたびに、心臓病、腎臓、肝臓、血液、色々な病気がでてきました。
現在、竜一も、23才になり、身体も大きく疲れやすく、歩くのも嫌がり、毎日のように下痢をして、かしわ学園も休んでおります。
親もだんだん年をとってきますと、病院に連れていくのも、困難になってきます、 ぱるす10号″にあったように、将来的には訪問治療制度があればいいなぁと思っております。

口腔医療センターのスタッフに感謝

藤澤宏修さん 通称ヒーロ）のお父さん　藤澤和雄さん

言葉を話せなく、泣くこともできない障害を持つ我が子。
辛い歯の痛みだけは分ってやろうと、歯科医院を何度か尋ねたものです。顔をゆがめ、痛みを我慢している彼。　口の中に手を入れて食事もとらない様子に、 ヒーロどこがいたいの？おしえてよ」と、立ったり座ったりして、長い時間をロビーや廊下で、妻と二人がかりで待ったものです。
名前を呼ばれ、診察室に入ろうとすると、 いやだ」とばかり全力で抵抗する。診療台に座るや、数人で抑えられながらも、汗だくで治療終了。
その後、口腔医療センターを紹介され、受付窓口と治療室の明るい雰囲気と親しみに接した時の安心と信頼感に、夫婦して驚いたものです。
それは、あれほど嫌がっていた診療台に、自ら進んで横になり、治療中はニコニコ顔、得意の 舌づつみ」までして、診療台からさっそうと降りてくる我が子の姿を見たからです。
知能が遅れて生まれてきても、人間としてやさしく接してくれる歯科医師と、看護の女性スタッフの皆さんの気持ちが通じるのは、障害者の従順な知恵なのかもしれません」
口腔医療センターは、受付窓口と待合室のロビーから、既に歯科治療を開始していると思います。
これが 福祉医療の原点」として他の医療施設に広まることを望んでいます。
20年経った今も、口腔医療センターの熱心な女性スタッフの皆さんに感謝しつつ、当時の事を忘れることはできません。

「光とともに・・・～自閉症児を抱えて～」　　作者　戸部けいこさん
秋田書店から出版　現在１・2巻が障害者診療室待合室にあります。

「光とともに」を読んで

伊藤綾奈さんのお母さん　伊藤保子さん

この本を読むまでは我が子だけの自閉の症状と思い込んでいた事に、とても驚き綾奈とあまりにも重なる所があり、反省し更に娘綾奈に済まなさと愛おしさが深まり、これからはより心の中を広げ、コミュニケーションをとりたいと言う気持ちです。

「光とともに」文中「ここならほっとできる場所」とありましたが、私も初めて「札幌歯科医師会口腔医療センター」へ行った時、受付の方から始めとても優しくして頂き、親子共々緊張で行きネットをかけ治療、力ずくで押さえるのではなく衣類をかけてもらうようで、数回でネットなしで安心して診て頂けるようになり、障害を持つ子の母としていつも周りの事に気を使い、めったに理解してもらえる事など考えてもない私は、いつも心温まる思いで検診を受けさせて頂いていました。

最近、来院した時主人が綾奈を連れて行くと私が家でふさいでいるのではないかと、綾奈の妹達のことを気づかって頂きこんなにも応援して下さっていた事に気づき、又さらに明るく心にゆとりの持てる母親になれそうです。

みんなのギャラリー

皆様の作品をどんどんお寄せ下さい 待っています

あかしやの時計台

内田　豊一

林立する高層ビルに沈む
時計台の音は
静寂な蒼き月光に誘われ
月日の年輪を語り合っている

あかしやの並木だけが
歳をとったのではない
すっかり大都市に成熟した
サッポロの昔話は
真昼のネオンに滲んでいる

あかしやの新しい苗木の街路樹に
春の魅惑のうぐいす色の夜風が
時計台の鐘と若々しく重り合っている

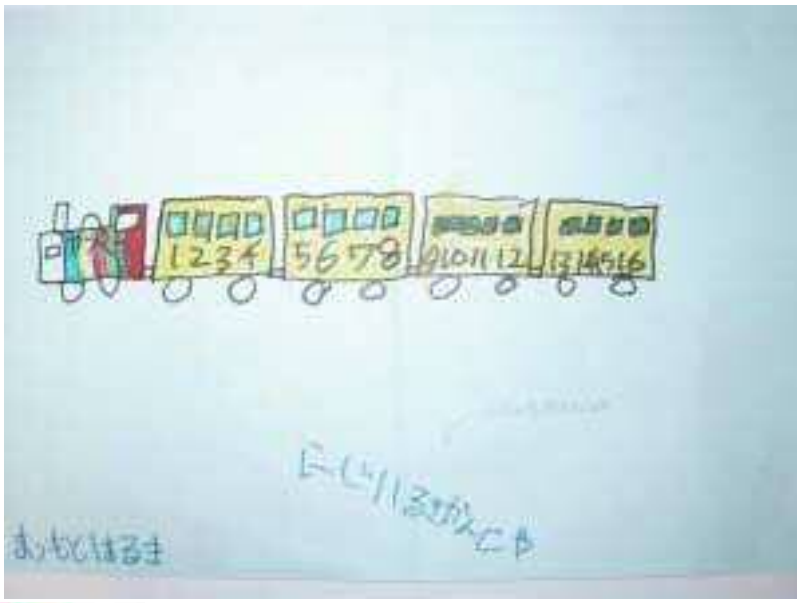
四季を幾度も生き抜き
美しく齢を重ねた青春の回生の
日々を追憶している

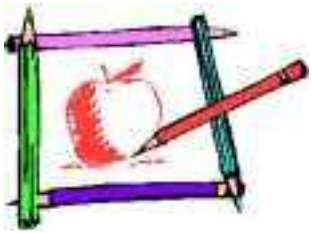
雑草の如く天地の恵みを生きるのだ

時計台百二十五周年記念入賞作品

内田豊一さん

加治利幸さん





松本春輝くん

お父さんと車で通った道を全道地図に線をいれることが出来ます。

松本春輝くんのお母さん　松本美穂子さんより

春輝（小１）は、自閉症の特徴である対人関係の困難さや、次は何が行われるのか見通しのつかない恐怖心などで一般の小児歯科での受診は難しいものでした。
以前、こんなことがありました。
歯の生え方に異常を感じ、近くの小児歯科に行ったのですが、レントゲンがうまく撮れなかったとも思いますが「歯茎が腫れてるだけだから」と歯ぐきに薬を塗っておしまいでした。
これでは納得がいかず、ちゃんと診てもらいたくて口腔医療センターで受診したところ「過剰歯」ということが、すぐわかりました。
それ以来、お世話になることになりました。先生は、春輝の様子をみながら、どのようにコミュニケーションをとりながら治療をしたらよいのか毎回考えながら対応してくださるので、歯科治療自体は、いまだに苦手なのですが、「イヤなんだけどがまんしなければ」という意識を起こさせてくれたみたいです。
先生をはじめ、いつも、やさしく声をかけてくださる衛生士さんに感謝しています。
　さて、診療までの待ち時間といえば、地図を見たり、絵を書いて過ごしています。地図は、春輝のマイブーム（こだわり？）で、よく観察しています。地図からたくさんの漢字を覚えたり、行ったことのある道をサインペンでたどったりしています。
お絵書きは機関車の絵をよく書いています。

ご意見ばこ登場

皆様の御意見・御要望など　どんどんお聞かせくださいね。

洗口室の鏡面側に「あかり」があると、口の中がよく見えると思います。
天井灯だけなので子供の歯の汚れの状態がよく見えなくていつも困っています。　どうぞよろしくお願い致します。

意見を頂き有り難うございました。早速 12月 9日　ライトをとりつけました。

最近のセンターの出来事

日頃の成果を発表

藤原士長

10月 18日（金）・19日（土）の両日、第 19回日本障害者歯科学会」が札幌で開催されました。
口腔医療センターでは日頃の診療や研究の成果を5題にわたって発表、全国に口腔医療センターの活動を大いにアピールしました。
発表者は尾崎勝巳副所長・橋本章障害者診療部副部長・藤原咲子衛生士長・隅田恭介所員・中澤潤企画研修部長でした。
発表者・所員・スタッフが一つになってがんばりました。

堂々とした講師ぶり

魚津先生デビュー

センターでは在宅や療養先で介護や訪問診療に、携わる看護師・ヘルパー・歯科衛生士などの方々を対象に口腔ケアセミナーを開催しています。
今年度 3回目の講習が 11月 16日（土）に開催され、魚津企画研修部所員が初めて担当しました。
もう何年も前から講義をしているような堂々とした講師ぶりでした。

救急診療部からのお知らせ

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。継続的な治療は受けられませんのでご注意下さい。

診療のご案内
電話番号　(011) 511－7774
午後 7時～午後 11時まで
年中無休

障害者診療部からのお知らせ

障害者診療部は完全予約制になっております。
電話番号　(011) 512－9497

年末年始　診療のお知らせ
12月 28日（土）～1月 3日（金）休診
1月 4日（土）より診療

編集後記

だんだん冬らしくなってきました。暗くて寒くて憂鬱ですね。でも考えを変えれば、春が近づいているということでもあるのです。早く暖かくなりますように。
でも、できるだけスキーは長く出来ますように・・・　（中澤潤企画研修部長）